

聖德太子傳

聖德太子傳

△ 13
3381
1



3381
1

二十八年五月二十日
子舟内

周芳州

景好寺

聖德太子傳卷一

聖德太子御入胎并御延生及瑞之事

二歲

二月十五日唱南无佛給事

三歲

三月三日桃花宴之事

四歲

王子達御口論之事

五歲

大正十年八月九日
本大學出版部

太子^{たし}敏^い達^{だつ}天^{てん}寶^{ほう}之^の后^{きさき}拜^{まゐ}給^{たまふ}事^{こと}

聖德太子傳卷一

それ聖徳太子ハ三世乃流傳の意也乃多と云

らう
救世親王様といふ年々也
とありて佛

神みて人神はむ人神みしてみし者の信

公果のねまうちをいふとむん解交差

ひもとてかうれしむ
 法華意図のつとまやうり
 くるえどくふ

越^こゆるゆゑに二子余年^{ふし}比^ひ中^{ちゆう}う^う流^{りゆう}之^の中^{ちゆう}天^{てん}竺^{ぢく}阿^あ耨^う耨^う
 割^やふの^ふ運^{うん}分^{ぶん}に^に書^{せう}ふ^ふ人^{じん}ふ^ふ少^{しう}ん^んを^を以^{もつ}て孝^{けう}養^{やう}の^の通^{とう}とあ

らりて三溪乃礼と云ふをあらわす新白礼

乃ち人ふひく 格受正法の致とめく 一 未幾

[illegible]

トニゴルヲシ

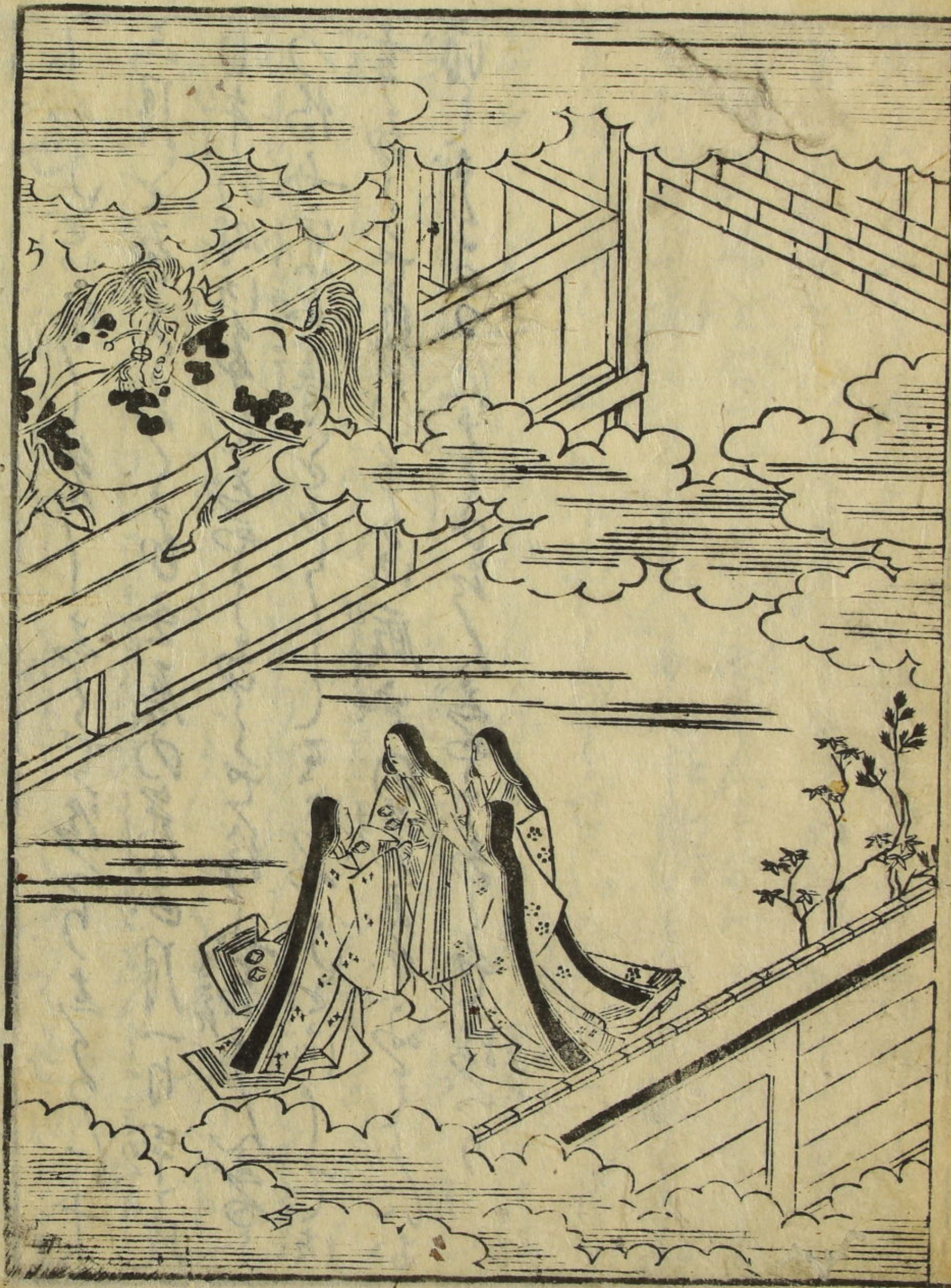
人王並代
ビシホフ
ビタツト云

大和國城上郡金刺宮

聖靈神を利物のまねとひきさ毎日深嘆
 の梵道とのふれた移うくを上宮なり海い
 うんちふとくとそんも人乃至四懸法界平
 等利益教む
 抑聖徳をみ我親は遠人トやうの時作と上吉
 ふくふめれど敏達天皇元年領蔵乃法
 事たりと六十余列のうちにあれよといふ
 やしとのたまふと和城二郡
 三輪の郷古蘇村泊河乃やとと磯城橋合刺
 突えんたり時のみじん王三年代欽明天皇に
 於一の玉子敏達天皇には即位元年れるなり
 東宮と又欽明天王第四の皇子豊日弓也り

てふれくさんど^の日域よりいふん
 明天王^の即位^の廿二歳次^の年^の正月一日^の甲子^の日^の欽

此乃養中に金色の像（おんがた）なりと現して用（もち）所天
 王（おう）は父より一人の聖人（せいじん）と云ふに親子
 とんあひのちぎらと廣くぬれやうれきもくえん
 然し後のぞれよとて一途ありとあらねど其の
 中（うち）に同春（どうしゅん）と云ふありぬきされどもよくこ
 つくとてまゐり終つたり作（さく）をわらありけりきき
 の愛（あい）と見ゆるなり金文（こんぶん）の像（おんがた）なりききとてかこ
 だすけりききとしてかきとむりとするのりきき
 やうけんとしてみづからまゐりのほろりとみづ
 みくけききくのあり。然（しか）せともくそんとお
 もふ秘（ひ）びあり秘（ひ）びくも名（な）のききにこのあり
 ど一途と云ふききとみづからききとてい



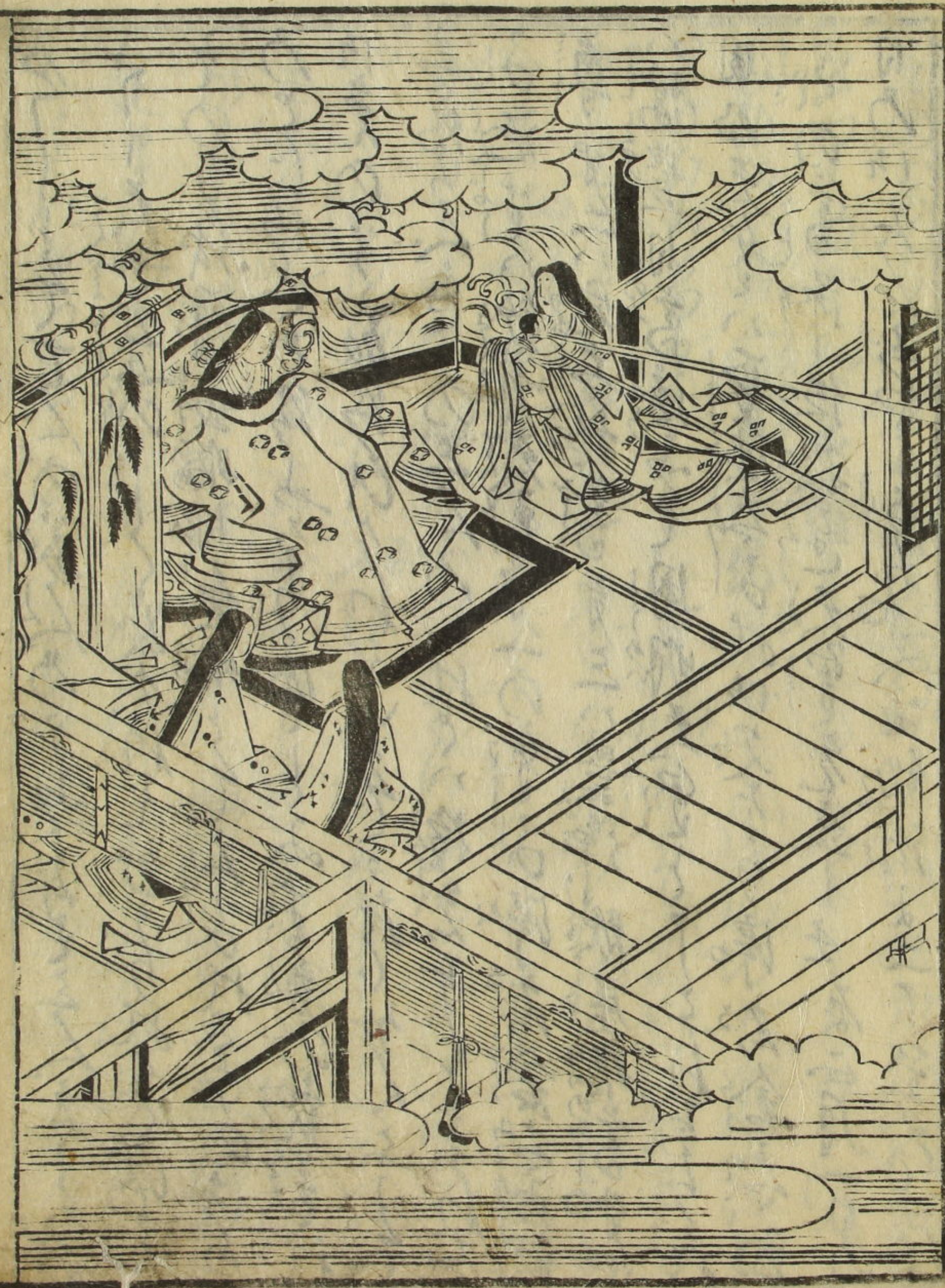
沈水シスイ
推ツイ

天王、葵、閏

海と云ふ端嚴義廉乃なるみそて雪のほそぐへひく
 ーをしてはあふらうといきやうらんじてわらぐさ
 くまうくをれむ侍女宋女月郷雲家より
 びゆると西方よりと赤黄のえあくたるみとして
 りたてまつりある宋女さうぶつて死あてまつ
 り錦のほろと志まはうんあふ入てまつれは
 宮中にえひありててじくやたなるみはは
 うり。ふでんあんどどいのともやうらんじた
 うつと知れあかんぬのうたら線状してはたん
 トやうるうでうあひくれぬ靈瑞さぬくやう
 ちんどもしとりあつとまつれど赤家のなるみ
 ちんどもやうよりやめ時のみど般を天宮にいさう

一とてすれどもありやうき人のいふ
 ありてはききうせあふと宮中へえぬて
 ううやうとていきやうあまひくうんじかれ
 〇。君やう死あがりあつて左右の大匠つ
 きくのもぬく若しとともまふ娘文のはね
 せいあれどもつとてつれこれふんどのあつと
 けりといふ子聖人あつてききり伝説とて
 とうくべしと勅まはりうりぬ天下あて
 するもの君やうつとてあつてはさん湯ハあつと
 うつひまうにうつり井とわてせいぬその名とて
 東井。千載永澤井やうなる東井とて今
 の代もあつとて多武をいふのうと

一とて春井れ君やうとてそれとてはなば乃井れ
 とて思ひつとてつれあとのくたふに産湯
 けり沐浴でゝ免たてまつり給ふ百官あて
 くをうつとて。葉乃弓遠の夫とていふ地
 甲子と射とて。金輪聖王とて長地久玉井
 安撫宝祚と長とていふとてまつり給ふ産
 湯の後のつりみと。敏達天皇とてつとても
 白綾とてつとてあがりとてまつり給ふ産
 一にとてつとてつたてまつりあまひく
 ちふれはあいのいさやうんじをれとてあて
 まる人のいさやうにまつて数日うちに産と
 ころとてうかんじいのもをえひてはめのとて

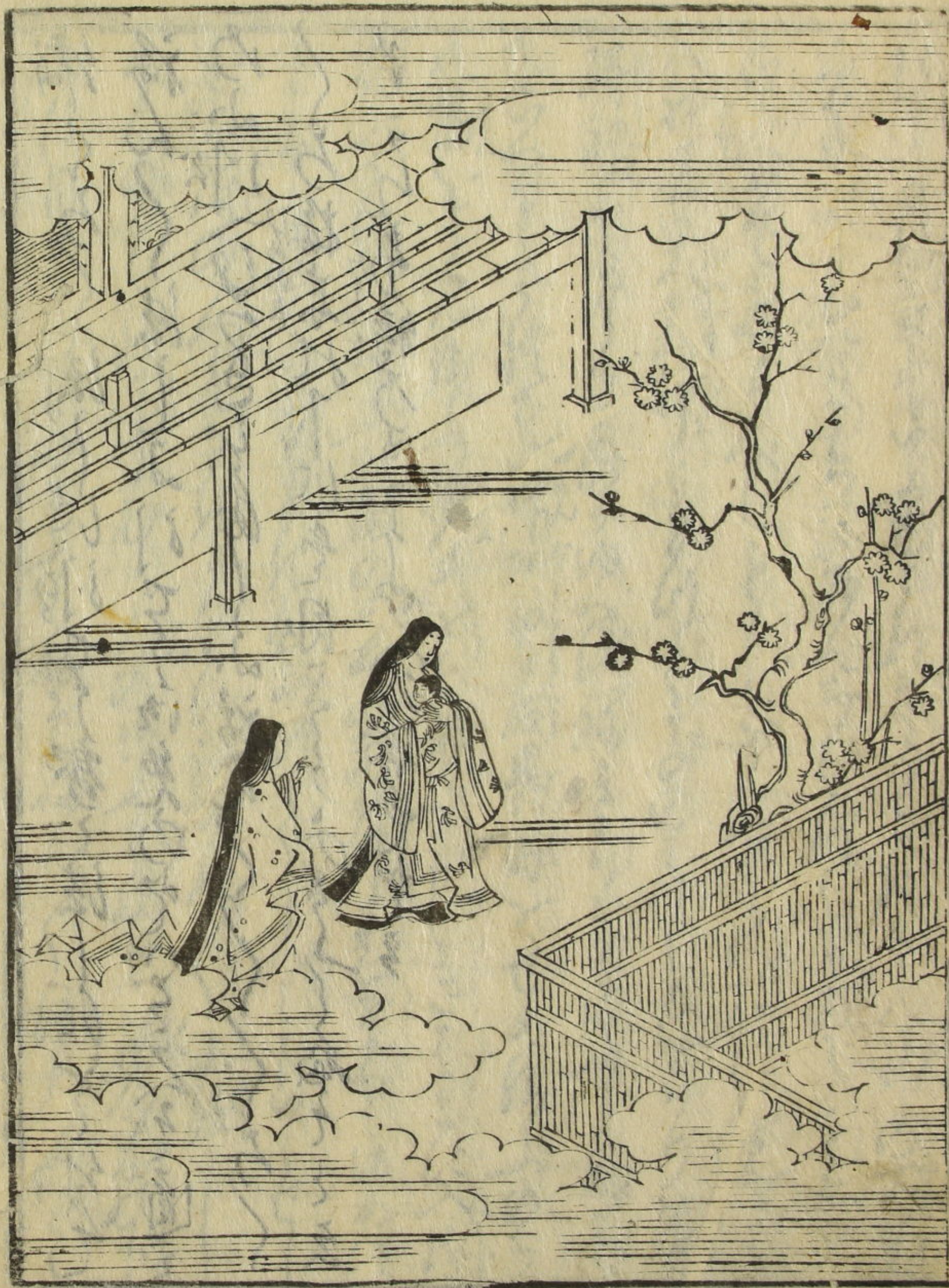


衆とあひまわれりる時とてとくく然とあ
 一とさうぶあひまわれりる
 ち終るといふと下と終るといふとこれ
 たりとて佛菩薩の利益を便する
 たりともくくく釈迦如来の西天よめて三
 の有破惠日と耀一終りつめの聖法をよ東域
 ちやいと感一三実とわがめ法面とくくくあ
 終るおせ乃はう升ひくめを誓願断除一切有誓
 願度脱一切法誓願修習一切法誓願奉持諸如
 来られ回弘の公たりとてあひまひあて毎日ぞん
 ちやいと衆乃天人のあめ法とてれ自淨に々
 衆のふちなりたる法とのくあつてをよいそ

るひあて八月つぎとみあのけうとんとあへん
 めて三宮のふれむらあけさうの濁うづせ来き代だいさう
 おふのいそんごあふびとつさうさう又胎内たいない
 十月つぎとさう。十三ヶ月つぎのうさきりあふる男おとこふ
 の吉事きしなり。悉き陀たちまの十二月つぎ漢かんの孝昭きやうしやうの
 帝ていの十四ヶ月つぎ羅羅ららをあらハ六ヶ月つぎ震しんとたむ
 るハ八十年つぎこれとあつるあは嬰えい例れいとつらん
 神かみも年としとあに八十はちじゅうとさうさうは父ちちとさ
 ひととれども新あらたたにむすれとさうひてむし
 ちとさうひくこれみか信しん志しあうとあひさひとさ
 意いとさうとあふさひあふるさうに決きふは乳う母はは人ひと
 のあは本ほん傳でんふたあのと三人さんにんはさうむあふひは胎たい連れん

女をなとてふてあつたれどなりくく種とた
 けぬにみ人のほめれとてなりくといれとて和
 は世にやきゆふしに路の中に立部寺
 につらぬ人のとつけりぬれあめにあんなし
 路の寺れ起りてかたやとじかぬれ
 てもたぬふ三人やとて理ちうひくは連女と
 とくといふむむとくともあつたにたふのた
 一やうな後りてふたふたさうともいふ
 時ふたふたなりてあつたれ路つたひくは連女
 じとめとのくのそとてなりくともたぬれ
 ともたぬえんきとてなりくともたぬれ
 ともくみなりそのふも月とてなりくともたぬれ

日とてなりくともたぬれ月とてなりくともたぬれ
 十七日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 十八日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 十九日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十一日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十二日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十三日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十四日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十五日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十六日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十七日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十八日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 二十九日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ
 三十日とてなりくともたぬれ日とてなりくともたぬれ



佛舍利○

太子二歳時

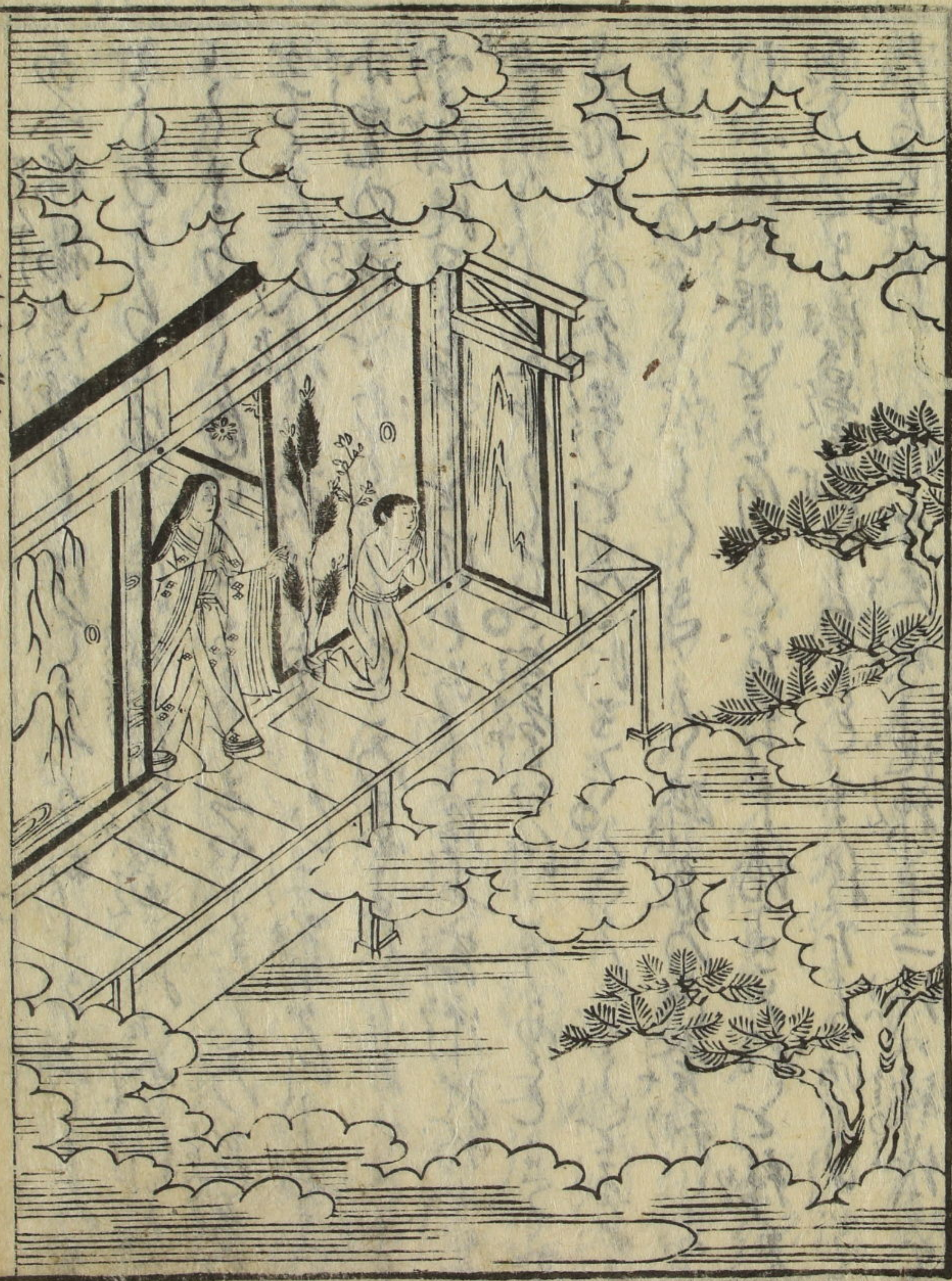
敏達天皇二年 乙巳歲

春二月十九日我御之佛世尊みあひくもどめて
 見仏之法を御覧とほども一強ふなりはたんど
 やし後まで二歳あるまで終るまでくちのほれ
 といふもむきもあらび那羅延金野力ちとい
 めもむきもあらび終るれとあきらめ終る
 といふのわかれはといふもむきもあらび
 我のありいとむきもあらび父の王母の后も
 るはあらびあらびあらびあらびあらびあらび
 みるべきありとむきもあらびあらびあらび
 する。二月十九日早良宮の時あらむに守る
 の時照法王佛の舎れ下には寝あててある

二歳二月
十五日○

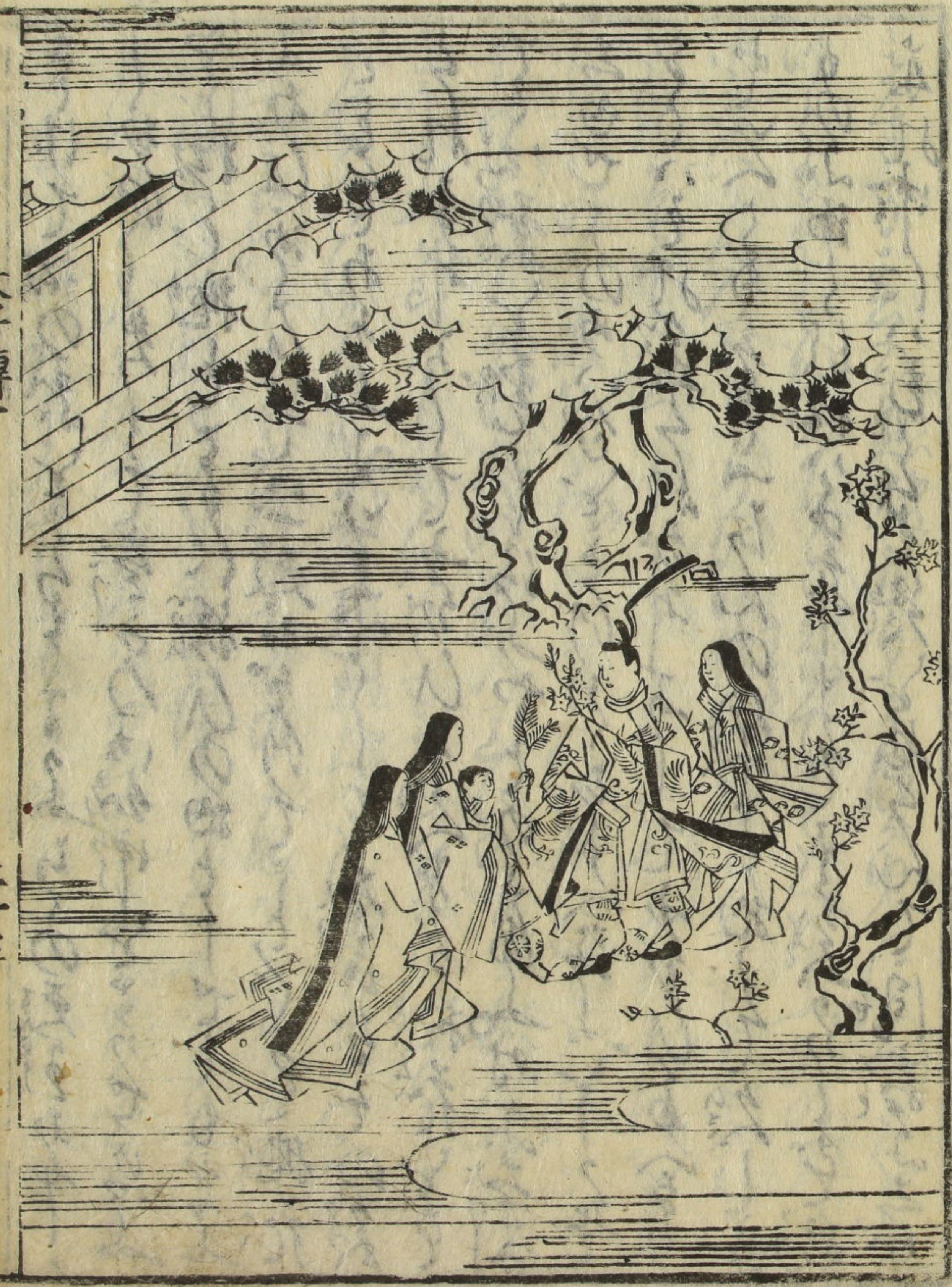
南无

語法飛

[illegible]

日あけしうーとどにやうもどあにぬ
 いんをれりうー桃ふりく。用明天皇聖
 徳をよとまうその君やーてる桃万歳を
 玉作安福の福増長乃統とあべーりーあ
 ゆに宮乃後園よりあして桃苑となふに
 見せうそりう桃ふりあふ。らの天皇左
 おれはぬに松と桃と二の枝とわてなるふをて
 ちうり桃ひく物してのるありく柳このねを
 桃とそとにいひひもといふ乃地うそゆり中
 みとろ桃うをふれはこふはいふい久しき地と
 かりーりーあがやいふあひくありんとめ
 うべーと物ーあその時あふされはふと

太子傳一



太子傳一

二十三

さけて松の葉にとらさるるふりの天玉あや
しき月一丸うてなきのは鏡中とてうやうや
や松と花ともになほの地とやせごのまふ
よあひゆひて二天とてことごとく花
とてあきふといふうてなるまそのま
くれお井うてあひひきり花とて
て松葉と花と一花あとのまふ時ふ
あやせうのめいふといふうてなるまそのま
といふそれふくれお井うてあひひきり
やうともさう一花んの葉と花とてくしき
あふゆい松と花とてなるまそのま
なれ中にいむとて笑とぬらんで風おふが

まするまの奥本なりとてゆぐゆぐにくま
いともさうなりとてなるまそのま
いふいんあまりに花とてなるまそのま
なれとていふとてなるまそのま
してのまぬり阿児とてなるまそのま
まうとて百太の殿乃とてなるまそのま
いふとてなるまそのま
さやゆひとてなるまそのま
てなるまそのま
は治とてなるまそのま
なれとてなるまそのま
いふとてなるまそのま

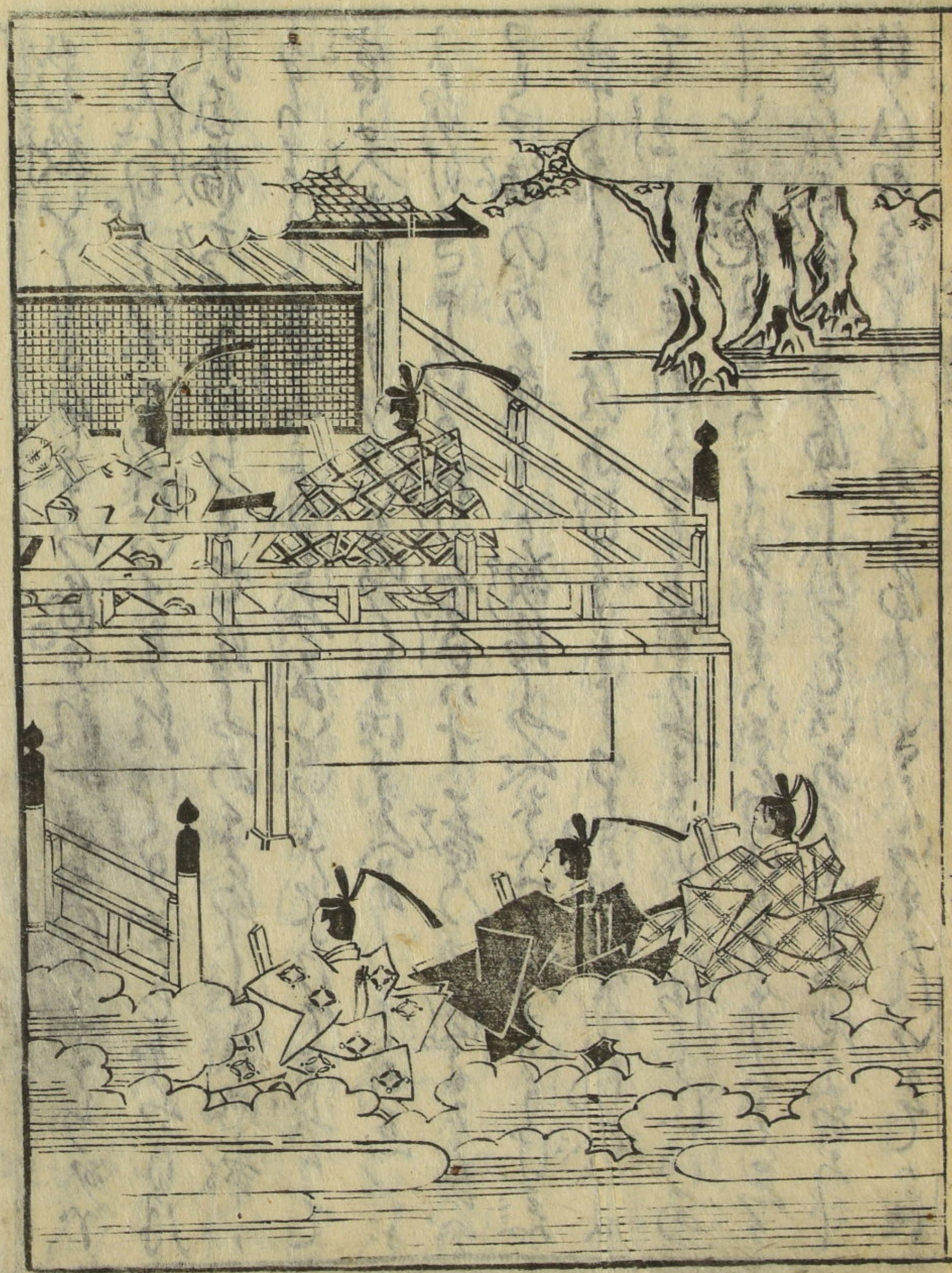
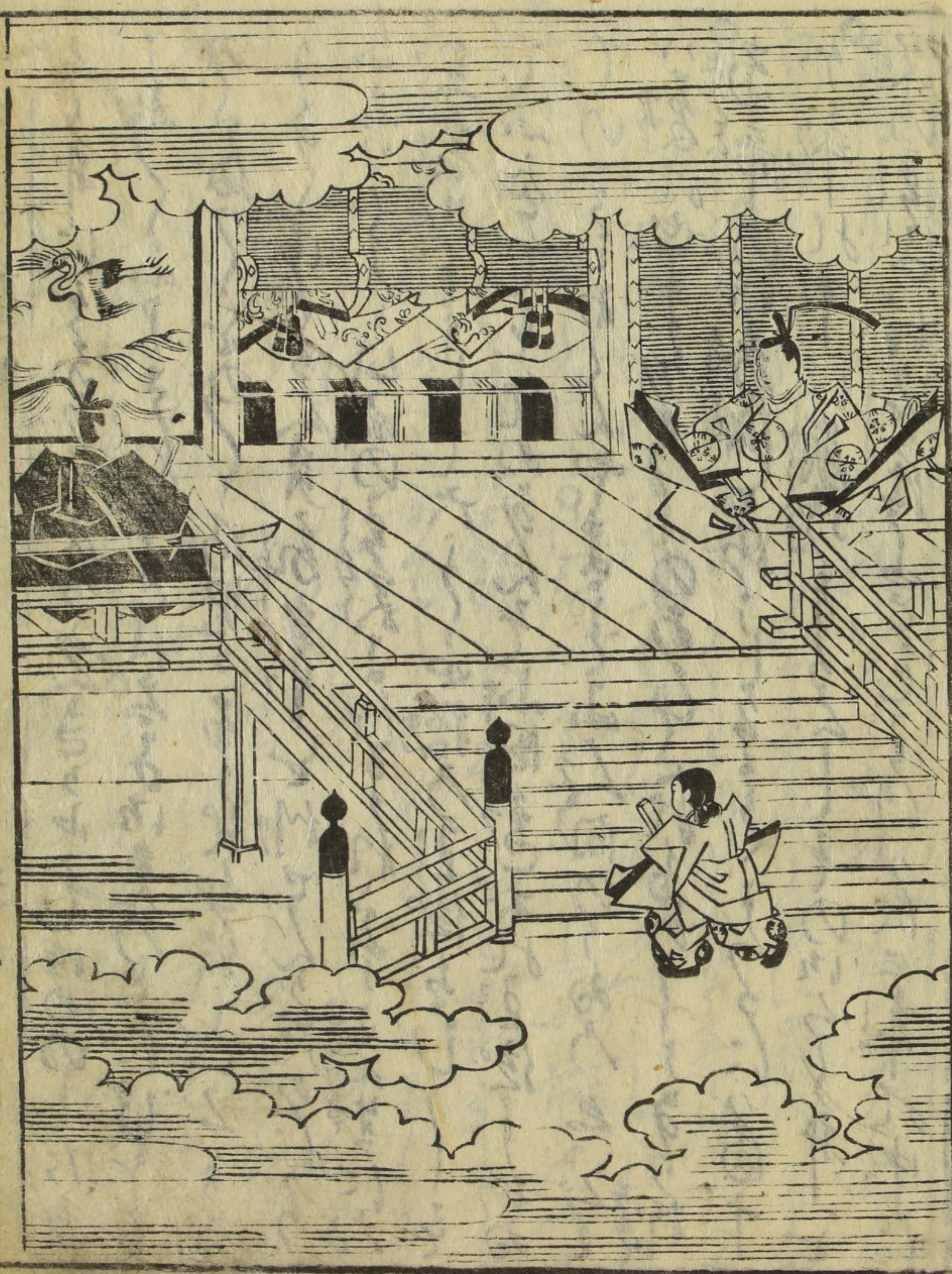
敏達天皇四年（五〇二）乙未歲

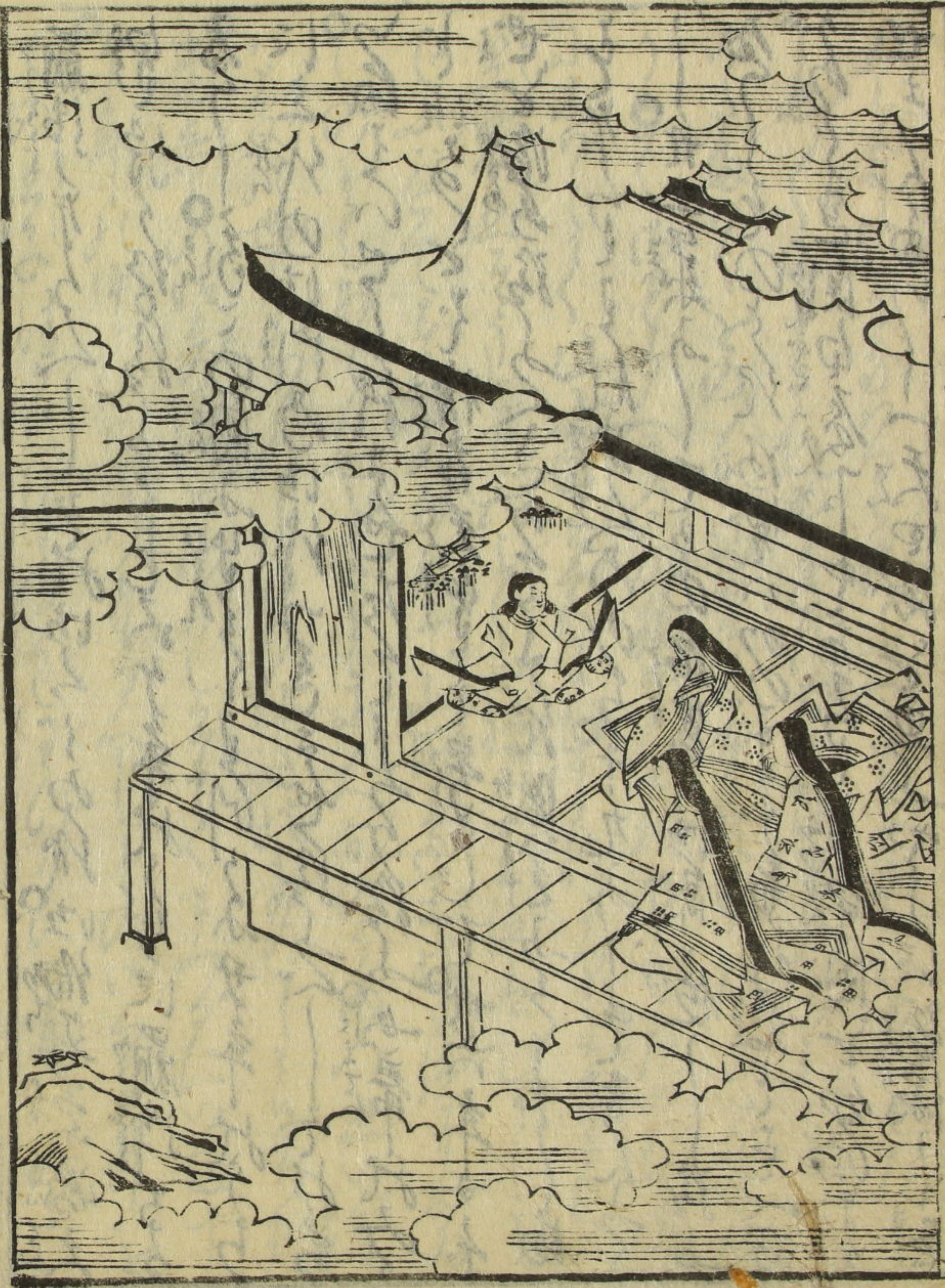
休將博二

譯田宮
石ノ視ス

[illegible]

まじ殺しとてさうなす。これと云ふの山と云ふは
 こにわづらなまけはいつりねけるものとぞや。日月
 はあ輪太池ちんたいはあらうとせ給ふあき海うみ一き世事、
 ろんとて庭えいうらとたまふといふれたてよりて
 宮みや入いれたてもつりとあくはすへあしてあきぐ
 よめけきやある柳ももたるハナ香かほるは位くらいよそあり
 と田海でんかいのあきぐとぬきぶ交まじ二天ふたてんのまつげを
 あてやうとひふじうとらとぬき乃風候なりふうこうは
 て玉たまおにそれらとあまの子とともども八十八にはあ
 ーと大地だいちはあらうとさうはなはゆるのみをさとさ
 ぬ我われ今日こんにちこの海うみ一とをいあーと土地はあらう
 けひぬるはるすれあき海うみ一とさうなすたりとせり





時よりたてしうり終る所の美奈人王世帯
乃如帝の法門推古天皇とて大和の市郡
を昭々実みしては即ち一くは治世世
云々なりそのうちありては十九ふ
しては元服せしめて推古天皇のまゝなり
也何れあらん終る所の美奈人のいふ
美奈人下れ實をいふては天の海
とてそれなりとてあらがふにやい佛
王法のよりとて執りて終るのいふ
み奈れ美奈人のいふとては
いふとてなりとて美奈のいふ
漢書でんやあがりては
漢書でんやあがりては

○

1111

大和倉ハシ山
フモト

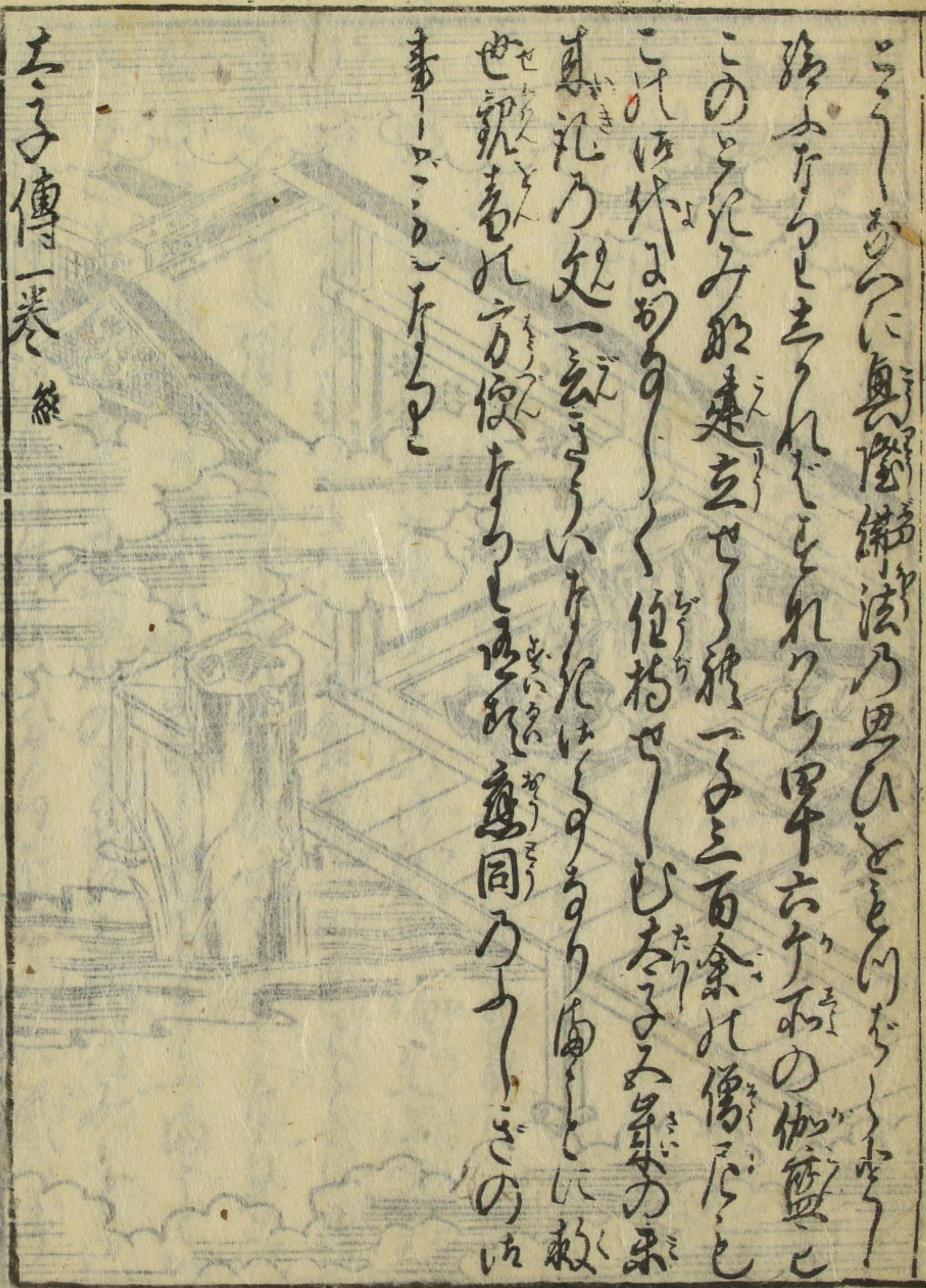
太史公

百濟國
學博士



とういふに奥座佛法乃思ひとものなり
 路よりとてふれどもそれより甲子六十の伽藍に
 このとれみね建たせし終一子と百余れ僧尼と
 これに休まわりく住持せしむる子と衆の来
 来れ乃て一とていふにたよりあり南とに教
 也親もれ方便なりしとて此の意同なりとてこのは
 事一とてなりと

太子傳一卷 終



聖德太子傳卷二

六歳

後百濟國奉後經論御拜讀之事

七歳

經論大意御說法并六拜日之事

八歳

後新羅國經述三子奉後事

九歳

土師八嶋歌曲并寅惑星之事

太子傳二

新羅國
 今日本
 代新羅
 國新羅
 國新羅
 國新羅

十歳

千鳥夷合戦之事

太子六歳之時
敏達天皇六年
酉の歳
冬十月百濟の王と新羅の王ととめて我
よやうりけぬ法を定むるの時諸君とてわが
人曾世一外敏達天皇治世六年此より
天皇の伝説日本にわたりし事あり
総そのお世乃中天皇國やうハ新羅より西十
里乃さういふをさうてはるなりとて日本
に震旦乃長安城より海道のくはる海乃
百里なりと震旦は長安城より中天皇の
よりなるなりと又み万里の海より日本
に中天皇にわたりたり十万里の海あり
くはるなりと流砂の海ありとて

太子六歳之時
敏達天皇六年
酉の歳
冬十月百濟の王と新羅の王ととめて我
よやうりけぬ法を定むるの時諸君とてわが
人曾世一外敏達天皇治世六年此より
天皇の伝説日本にわたりし事あり
総そのお世乃中天皇國やうハ新羅より西十
里乃さういふをさうてはるなりとて日本
に震旦乃長安城より海道のくはる海乃
百里なりと震旦は長安城より中天皇の
よりなるなりと又み万里の海より日本
に中天皇にわたりたり十万里の海あり
くはるなりと流砂の海ありとて

やうとやたらと純は特がれ續きやきんし
あきなりと怒のめりけと厳つとく三義はけを
てのふぬくふまゝに人々にあつとく
い西方極楽世界乃補処のたふしとく補色
世界れあつとく大慈大悲乃親せき善善は
とれりらあめりとも作あんり天竺國れ
とやうとめりひるをいふとせし事と思ふ
あふこのふひはとくに東七世の常然りあ
時を流砂の川とてかを捨つる時い慈願乃ふ
て命とめりとくのとくせんとやう東七世
うとぬるふのあんどふあう形命とめり
ふひはぬとく東七世にゆひあつとく

る成又鬼神のうとめいぐいせとあをにめり
あひごあめりぐとくひまへためにびやとや
の勇成とあんどてあんどとくむとくこれ
あきなりと怒のめりけと厳つとく三義はけを
てのふぬくふまゝに人々にあつとく
い西方極楽世界乃補処のたふしとく補色
世界れあつとく大慈大悲乃親せき善善は
とれりらあめりとも作あんり天竺國れ
とやうとめりひるをいふとせし事と思ふ
あふこのふひはとくに東七世の常然りあ
時を流砂の川とてかを捨つる時い慈願乃ふ
て命とめりとくのとくせんとやう東七世
うとぬるふのあんどふあう形命とめり
ふひはぬとく東七世にゆひあつとく

ぐー臨下ふハ堅寧地神 英魔王衆みな眞
 實司令司御俱生神ホーるぐーをういつらんを
 ぐーして一さいち也トやれ善惡の二端を記漏
 ぢゝあくひあゝくゆるりらじ之霞八校とてく
 のゝゝちあさうとゝゝゝち善惡ゝゝゝあやま
 りにあらゝゝゝ交霞しハ交きうぐー以強よ小夢
 ち交やゝゝゝゆらゝゝゝおろこれすゝゝ人夢二
 度ゝゝゝ然ゆらゝゝ六日れゝゝ。七日七夜とて
 〇時正彼岸と多づもゝゝ切利天の若法堂
 よあひゝゝゝ移くれ眞友眞友之也あゝてち
 ちとどゝゝれ善惡よゝゝせてゆゝゝゝ一さい
 前牛一の善惡乃せむとあゝゝめゝゝ時ふゝゝゝ

[illegible]

太子傳二

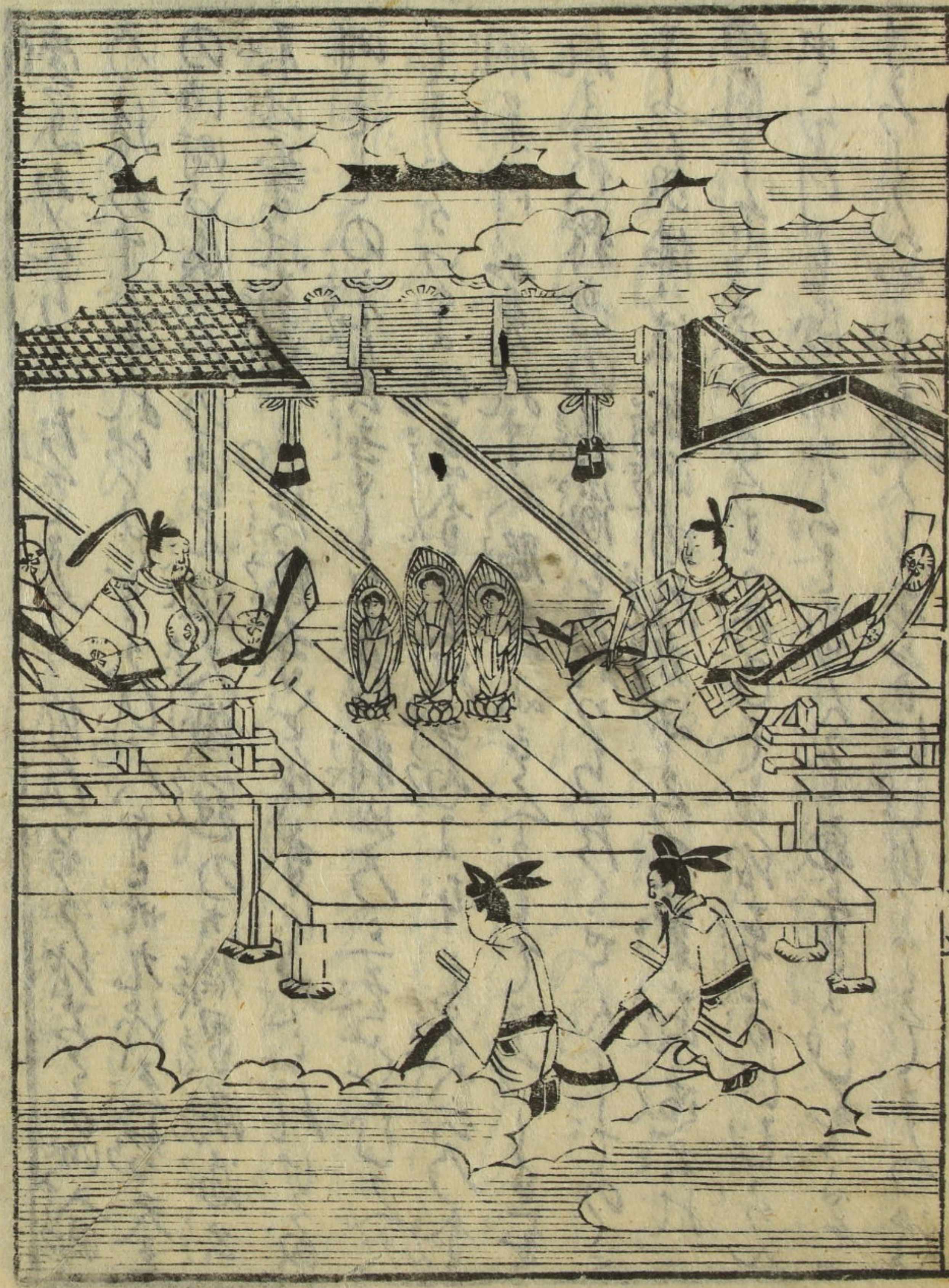
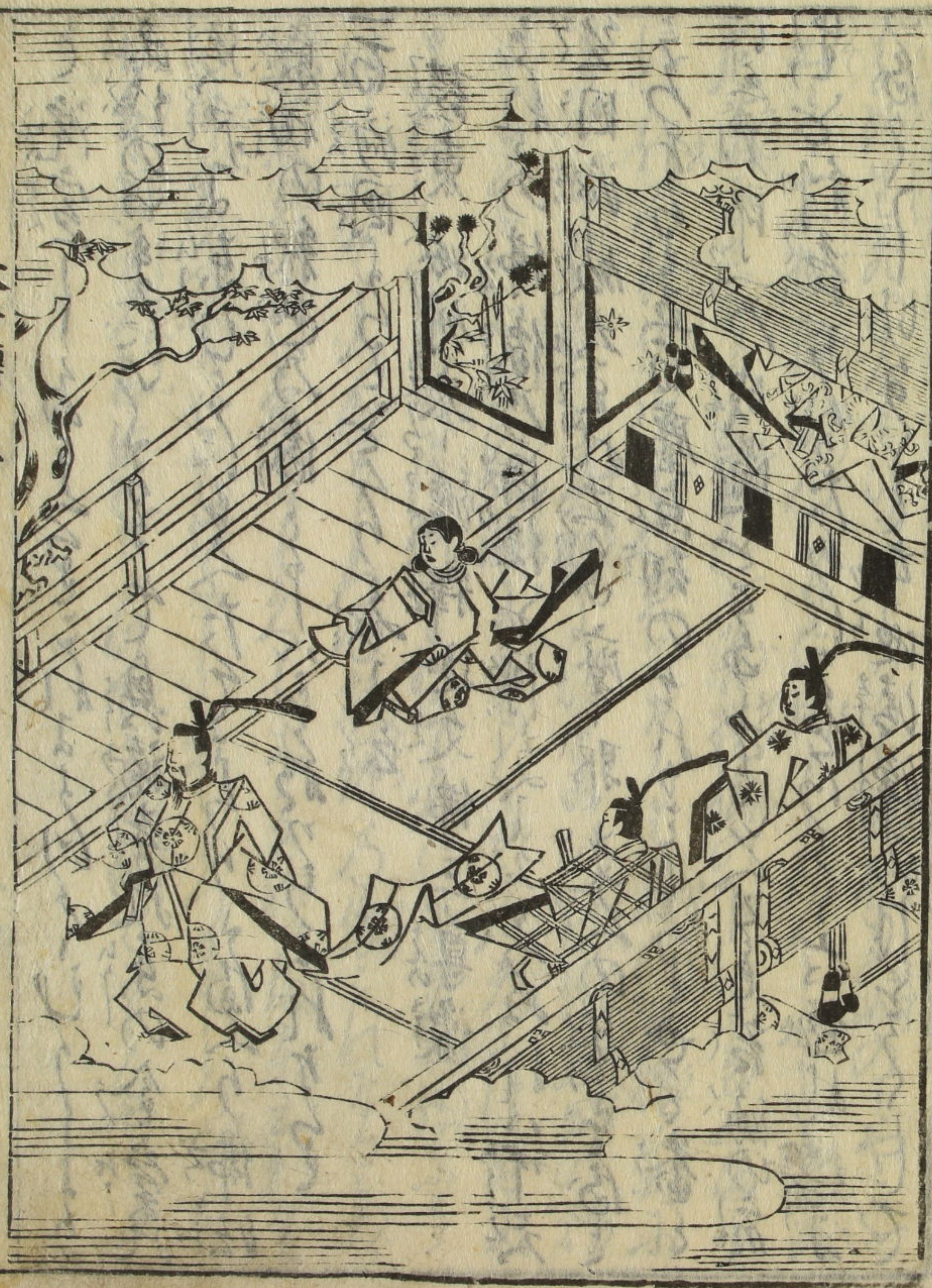
[illegible]

逸の懸徳を酬げんやあつゝ海よりをこさとい乃
 る俗ありきまゝのそんごをほしやし
 てそとふ一拂斬ちるをむとらんをのふ

一

おはらうとて海をひいてあやむのうりあられを
 とくもとて海をひいて一とい神明のち地なる佛菩薩
 像の利を成じしうくともいへくはたききと曠劫
 めくあひうたれ佛菩薩像の像をうととを
 移んぐらにとれあもひくれと一といの思と
 先ちてうり群衆一同はまんきやれあひひ
 あくともてうりたすいあむなりと。そのうち
 和國は大地盤とて元興寺とあつをうの和國
 乃とをてあきしとてうり移ひけりこれと
 らりあきめいとの一といあきせれくえのあき
 移るれ真經とのうくともあきひかりあてと
 佛法最初の和國のさうとて大地盤元興寺とて

堂ふあんりたてうり移ひあうけあき入
 乃後あき平れけりといふ。人き世九代天
 のは時い後一人のいせん祖大織冠のち後男漢海云
 不平等れ南都。興像寺とて氏寺に建られけり
 時ととの元興寺とて後和國乃とてを
 てうりつもの。あき堂れあきとてあきとて
 桐葉卿あきれし人賜立ふとてうり
 れと後和國の具像とれりたてせん。この
 まふあ佛法東漸の和力ふうて要あきとて
 の國とてさうとてあきとてあきとてあき
 やうとてあきとてあきとてあきとてあき
 まうとてあきとてあきとてあきとてあき



と澄空一海とていふよりいへり
 来代のつまにづゝとて奥後寺に東の金堂に
 後戸は東にむかひたるにたてられり
 最初の釈迦の像とて一はむらり
 一百河内よりととりふり云

經東海列奉渡釋迦文佛三尊像

それの佛像乃因位と月支よりとめられ
 竺國津岐大主にたてられ
 五百塵点初のそれよりとせと
 三尊の成道とてありとて
 地清淨の月とてして

文に死の趣といふよりと法性美の
 妙く妄想顛倒のうちに同く
 尼蘭よりとてと善悦樹の下に
 一代の結化に生れ慈父なりと
 まうけり利益と冥黙よりとあり
 せとそに双林の入滅よりと
 まうけり後滅後利にせと
 けりたてられとて乃新佛の像
 竺震旦の利益よりとせと
 の佛よりとてとてとてと
 日本國王大抵何とてとてと

卷之四

敏達天皇九年庚子歲

太史公傳

鬼神ハ帝の曲まがひをうけんかゆふとていふ
 とおしてうひわれをわづらふたふん
 こもあふとありたふあまうふれけを
 やにやせうけうけんとおしてゆきあふを
 しもたむうとていふて神波浦うとて
 世余町こらういふ位君れうの海乃けとて
 入ゆりこの鬼神とていふれ禁ふとていふれ
 ハ諸う年くちのいけうふの大事天下の
 あふとていふて内裡よりあふこのうとて
 りんとていふていふ。敏をたふとていふて
 とていふて先代の位代よりあふれうとて
 せうに例文とていふていふていふて

了りあふれとていふて先代乃例文とていふ
 せうとていふていふていふていふて
 神をたふとていふていふていふて
 りんとていふていふていふていふて
 位代乃例文とていふていふていふて
 界のいふていふていふていふて
 神波浦のいふていふていふていふて
 せうとていふていふていふていふて

五行 木火
土金水

南方
其二月
赤色
火

甲しよま三月とつやうど。又秋の中、みん本とつらさう
をみん色れ星也。西方に大の白星として秋二月庚辛
金とほきさう。白色れ星なり。西方に震星とて
之二月壬辰水とけうさう。海より文の星なり。中
央に鎮星と云り。やうくはみん北中、みんを
つらさう。黄色とて戊己の星也。南方に火星
星とて丙丁乃星とてこれと又星を北中、み
ん三月とつやうど。みん中に火とけうさう。その
みん色れ星也。びる星天地とて此の星とちるもの也。
あうにま下にいふあんわうとて、これ星とて
くはみんとしてこれとてこれをあらひ地なり
にみんすふその時など何ともしてやういふし

新ひもやま子^こ吾^わ好^こむ^む故^こき^きれ^れく^くに^にま^まれ^れ
なりふ

河原のふもとに
離れどふれど
交りては
別れ

[illegible]

十八名トモ云
又亦五名モ
有リ

卷三

太二十歲

[illegible]

太子專

二

三十五

万民よつゝもても熱歌あでこの一た新にさう
 ももろのいふとやうて人してあはれとせられん
 どえびとく大勢とつよくおほきとめてぬけつ
 き乱入られどもうとやゆさにあつていととあらう
 ーちりーのいふとやうていづひありあつて
 る上決つと東夷といふとしてゆかくれと
 くまぐしひとありゆるせんきありやとのこめ
 いわれど小野たばやとせあるやうとてそ日
 年あはれいふとやうな東夷あつてこれ小島なりやと
 とと東夷西戎とてあつてそれだわいら新
 の歌あはれとせびととせでもききあつてあつて
 ととあらあつていふとやうなるものありとせ

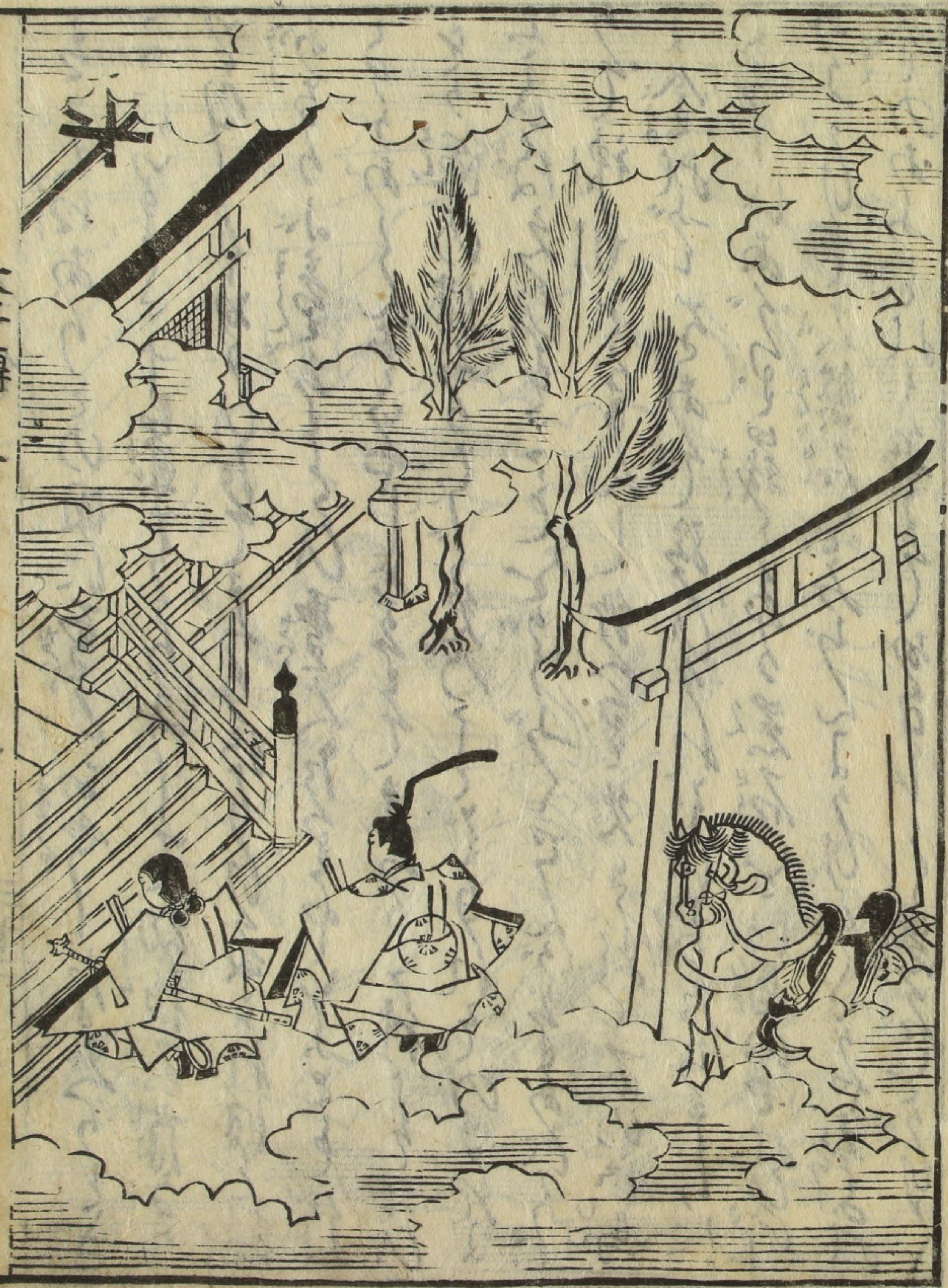
三乳渴のためふみとて七難さ多いきうと天
 トみだれあつとあふ萩我守屋小野一姉ふ乃
 臥等むむおしと先づし山田城新戸降にあ
 て七の舌とばえこあて水とあてて海のとく
 水とあてたうとけ敵とあせぐあにいふ
 時ううんさうとさかてるらうと流と地のそ
 ふと所りんとそ地乃そそにを斬とくそと流
 のもろしやうらうらとびとびとそそそとらうと
 れとらとれと引ちぐくそそそとれ軍の勢とそ
 おとべ氏との軍兵やれとそそそとてあふに
 でれとれとそと流とそとわと流とそとにや
 けとれとそとあれとあてうと流とそとにや

はと流とあてうとそと流とそとにやとそと
 あふと軍兵とそとにやとそとにやとそと
 のりとそととそととそととそととそととそと
 このとそと流とそととそととそととそととそと
 我小野一姉ふむとそととそととそととそとと
 うとそとと流とそととそととそととそととそと
 うとのとそとと流とそととそととそととそとと
 くふとそととそととそととそととそととそと
 ハ作と照と神とそととそととそととそととそと
 とそととそととそととそととそととそととそと
 とそととそととそととそととそととそととそと
 外とそととそととそととそととそととそととそと

稱

[illegible]

神の心をなやまして世にあらはれぬとて、
やのうらひてなまぬまの一人あらふなり
ふりてえびとが城へうらむをきひきり
ざとけともの人ぞぞりてぞとてきりぬ
のたまふなりけりもけりなりけりこの
るのたまふ神大和國と輪大の神乃和を利
のまゐさんなりとてなまぬまの居ぬ人
まゐりてあらはれけり神とてあらは
がまんとはけりなまぬまの居ぬ人
よけ馬よめりてえびとが城へうらむ
けりけりけりけりけりけりけりけり
めりけりけりけりけりけりけりけり



ままおありこの國に聖人あもす
 まにやうそ十葉をくらひて幼穉不肖なり
 つれくぬひたせしうはりのぬれほど
 かぎり小童とともひ聖人たるをやいふとも何
 ろうあゝんぞやしむるすつらねくをえび
 とう運のばかるといふ方こそなるれそのまたよ
 るふなえびとともとどろくぐらんがきめになど
 うそ神かとおもひし新へると思ふよくあの馬
 は金枝ぎらをあらけ給ひたれは富たらすちに
 こころにあづかるも我々あり思ふとは馬の口はひげ
 めふりして大盤石といふんようひくくやなみ
 金のあつてもいふ所までありく思ふといひく

魔國の海のさださいあげけりてまじくも
 けり。○投石のふやうにものゑぬてゆり也
 流は御將軍のいえびとくく入る人ともか
 一鉢くくくくくれもあまふあじひのふ
 づ。○ふあうくくくくく見とくけりてゆり
 この前後最悪のころくくく明敵とくけりて
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 づ。○ふあうのふくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 いふくくくくくくくくくくくくくくく
 けり。○ふあうのふくくくくくくくくく
 けりてふけりてふくくくくくくくくく

観望のふくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく
 なるくくくくくくくくくくくくくくく



のり命やうとにわじらうの勢にねえ
 中上はうと天西遠原村をぶらり
 とぬきあひめて頼ようもくわうの
 の所へはうとたてまうと命にむ
 さうとたてまうと命にむ
 へうとたてまうと命にむ
 つまうとたてまうと命にむ
 小のまうとたてまうと命にむ
 りうとたてまうと命にむ
 のりうとたてまうと命にむ
 しまうとたてまうと命にむ
 まうとたてまうと命にむ

[illegible][illegible]

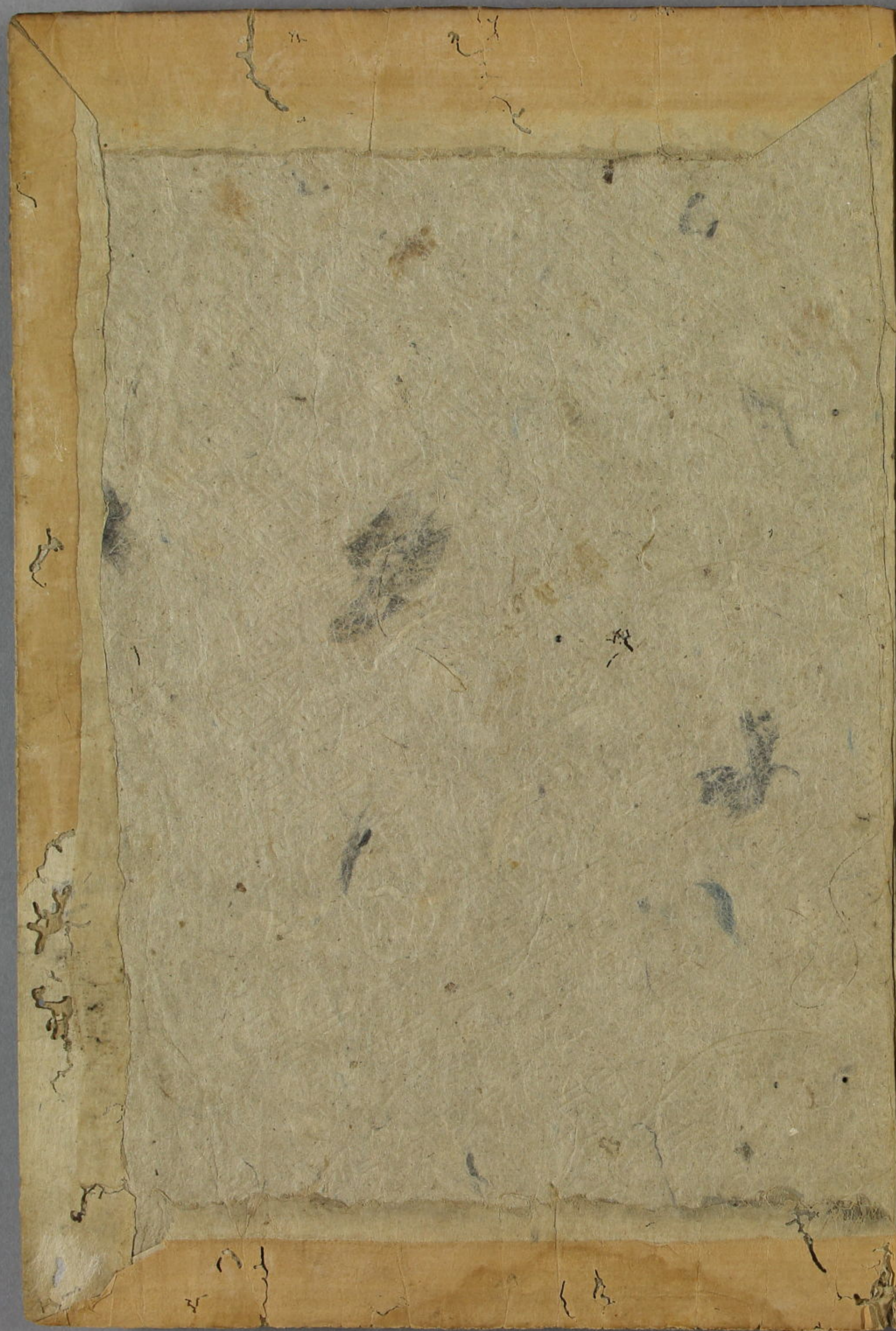
強くしてぐくむるれ終亡ひあんとしうひ約
つてそのうち王烈大恩のあつたにみせれて
うけうあつたなり後綿等と極めふはるを
折ひたれし夷もいつくたされし諸蕃も
あつたなりとてうけうあつたなりとて
あつたなり。今田郡群衆坂とてありえびを
とて少なりなりとて終たなりと後とてに七
百余年なり今よつたなりとてあつたなりと日
なりと終たなりとてあつたなりとてあつたなり
るの佛法終たなりとてあつたなりと利養も
なりと終たなりとてあつたなりとてあつたなり
くもあつたなりとてあつたなりとてあつたなり

代のいふよりうけうあつたなりとてあつたなり
下四海の民とてあつたなりとてあつたなり
神龜紀表とてあつたなりとてあつたなり
なりとてあつたなりとてあつたなりとてあつたなり
乃神方便なりとてあつたなりとてあつたなり

土子傳卷二終

大正傳

サハハ



Handwritten text in a cursive script, likely a library or archival stamp, enclosed within a rectangular border. The text is written in a dark ink and is oriented vertically. The script is somewhat faded and difficult to read, but appears to be a formal record or inventory entry.

